

BP
business partner

大塚商会の販売最前線からお届けするセールスノウハウマガジン

Navigator ²⁰⁰⁹ vol. 43

Presented by **Otsuka Corporation**

巻頭特集

必読! 不況期の 売り方と商材 50

企業ユーザの期待に即座に応えるために、
今、提案すべきソリューションとは何か?

第2特集

ノートPCのビジネスチャンス到来
PC市場の主演はデスクトップからノートへ

Focus

マイクロソフトの支援策を利用して販売促進をしよう
windows Server 2008 Hyper-Vの仮想化認定プログラムで支援
市場に眠るサーバ統合ニーズを狙おう

CAD情報

電子納品の手間を解消する土木向け電子納品ツール
「AutoCAD LT Civil Suite」

BP Navi Value

実録! BP営業奮闘記
成功事例ファイルNo.5
Oracle RAC+EVAによる
大規模データベースシステムの構築支援

広告企画

USBメモリ特集
高速・大容量のUSBメモリ
セキュリティ対応タイプが主流に
カラーマネジメント特集
専門知識なしで使えるツールが登場
より身近になったカラーマッチング



CONTENTS

● ITソリューション

- 16 巻頭特集
必読! 不況期の売り方と商材50
企業ユーザの期待に即座に応えるために、
今、提案すべきソリューションとは何か?

- 28 第2特集
PC市場の主役はデスクトップからノートへ
ノートPCのビジネスチャンス到来

- 72 Focus
マイクロソフトの支援策を利用して販売促進をしよう
**windows Server 2008 Hyper-Vの仮想化認定プログラムで支援
市場に眠るサーバ統合ニーズを狙おう**

- 74 Case Study[医療編]
セールスアップのための事例研究
**大きな伸長が期待される電子カルテ市場
病院・診療所のお客様に対する提案の強化を**

- 78 CAD情報
電子納品の手間を解消する
土木向け電子納品ツール「AutoCAD LT Civil Suite」

● BP Navi Value

- 48 実録! BP営業奮闘記
成功事例ファイルNo.5
Oracle RAC+EVAによる大規模データベースシステムの構築支援
- 52 Service & Support
サービスサポートMAP

● 製品情報

- 6 New Products
68 Market Report / Consumer編
96 ソフトウェアカタログ

● コラム

- 9 IT Trend Watch
11 最新ITキーワード
67 柳原秀基の目から鱗のIT夜話【第八夜】
76 知ればお得な最新IT用語検定【第7限目】

● 広告企画

- 38 USBメモリ特集
高速・大容量のUSBメモリ
セキュリティ対応タイプが主流に
- 86 カラーマネジメント特集
専門知識なしで使えるツールが登場
より身近になったカラーマッチング

- 105 BP Navigator Back Number / AD Index



巻頭
特集

企業ユーザの期待に即座に応えるために、
今、提案すべきソリューションとは何か？

必読!

不況期の 売り方と 商材50

100年に一度といわれる厳しい経営環境が続くなか、企業は生き残るために、これまで以上に効率化経営を目指し、可能な限りのコスト削減によるスリム体質へChange(チェンジ)しようとしている。今の市場の荒波へ立ち向かうには、単にコスト削減を図るだけではなく、同時に業務効率化を図るという平衡感覚をもった経営の舵取りが必要だ。しかし、何でも削減すれば良いというものでもない。コンプライアンスの観点から強化しなければならないものもある。いずれにせよ、ITによる即効性のある提案でなければ、エンドユーザ様にはまったく受け入れられないだろう。そこで今回は、「必読! 不況期の売り方と商材50」と題し、コスト削減や業務効率化に直結し、さらには企業体質の強化につながる具体的な商材を一挙に紹介する。

不況期に克つ6つの提案 ~ITによるコスト削減と業務効率化~

提案 1 今こそサーバ統合の売り時だ

古いサーバの継続使用の問題点

経済状況が厳しい現在では、企業は新たな機器の導入を先送りするケースが増える。その結果、サーバやストレージの追加ニーズは潜在的には高いのだが、既存サーバの保守契約を安易に延長するケースが増加している。しかし、果たしてそれが得策なのかを問題提起する必要がある。

その理由として企業内で情報共有をするためにファイルサーバの利用が進み、既存のファイルサーバでは容量が足りなくなった結果、部門やグループ単位で使用する小規模ストレージを増強するケースが増えていることが挙げられる。さらに内部統制の観点から、社内ネットワークへアクセスする際に個人認証を行う仕組み(Active Directory)は必須であり、ウイルス対策などでアプライアンスサーバを新たに追加するなど、サーバで稼働するアプリケーションは増え続ける一方である。しかし、このような状況下で現状のサーバ環境を維持しようとする、次のような課題が立ちはだかることになる。

第一に、サーバ台数の増加により、OSのライセンスコストやハードウェアの保守費用などがかさみ、システム管理者の管理工数が増大することになる。

第二に、サーバの増強にともない、電源容量を拡張する必要に迫られ、電源工事費用や電気代が増加することになる。

第三に、Windows 2000 Serverが

2010年にサポート終了になるため、既存のサーバを継続運用する場合は保守面で不安が生じることになる。

サーバ統合でコスト削減を図ろう

上記のような諸課題を解消するためには、既存のサーバ環境の見直しを促し、各企業に最適なサーバソリューションを提案することが重要となる。そのひとつが、サーバ統合化の提案である。

仮想化技術を使ってサーバ統合を行えば、古いサーバの台数を10分の1から20分の1まで削減することが可能だと言われている。サーバ統合では、ブレードサーバを活用するケースが多く、その代表が、HPの『BladeSystem c3000 ①』やIBMの『BladeCenter S ②』である。一方、仮想化ソフトでは、VMwareの『VMware ⑤』やマイクロソフトの『Hyper-V ⑥』が利用されるケースが多い。

最近ではタワー型サーバで手軽に仮想環境を構築したいというニーズも増えている。タワー型サーバではNECのPCサーバ『Express5800シリーズ ③』の人气が高く、多くのシェアを獲得している。また、同時に仮想化を実現するストレージシステムとして、HPの『Storage Works EVA ④』の提案も非常に有効である。

もうひとつのポイントは、『Windows Server 2008』への移行である。「Active Directory」や『Hyper-V』をはじめ、ウイルスなどの脅威からサーバを守る検疫ソリューション「NAP」が標準

商材ファイル ①

●日本ヒューレット・パッカード

ブレードサーバ
HP BladeSystem c3000

省スペース性、柔軟性、管理性といった、ブレード型サーバが持つ特性を存分に生かせる中小規模システムに最適なブレードサーバ。



商材ファイル ③

●NEC

タワー型サーバ
Express5800シリーズ

1994年にインテルアーキテクチャをベースとしたサーバとして販売を開始。以来、IT環境の変化に対応しつつ、PCサーバのラインナップを充実させ、省スペース、静音性を実現。現在も多くのシェアを獲得している定番商品。



商材ファイル ⑤

●VMware

仮想化ソフトウェア
VMware

「VMware」は、ハードウェアで動作するOS上で仮想マシンを作成、実行するソフトウェア。Intelのx86互換機上で動作するあらゆるOSをインストールすることができる。



搭載されているので、各製品を個別に揃えるよりも経済的だ。

サーバ統合の提案では、具体的なコスト削減額が「見える化」できれば、企業も前向きに検討するようになる。マイクロソフトのWebサイトでは、「簡易運用コストシミュレーション」を無償公開しているので、参考にするといいだろう。

簡易運用コストシミュレーション

Windows Server 2008のサイトで無償で公開されている「簡易運用コストシミュレーション」では、現在の社内のサーバ数と統合後の目標とするサーバ数、さらにユーザ数を入力すれば、コスト削減試算結果が表示される。提案する際に具体的な数字を提示できれば、コストダウンの言葉も説得力を増す。



<http://www.microsoft.com/japan/windowsserver2008/migration/calculator.mspx>

提案 2 コスト削減の特効薬 出力機器の統合化を提案しよう

オフィスに点在するプリンタやFAX、コピー機などの出力機器の総数、リース料や減価償却費、出力状況、利用状況を調査することで、コストダウンや業務効率化を図ることが可能になる。

例えば、機種別トナーやドラムなどのサプライ品の手配・管理が面倒だったり、機種ごとのランニングコスト(紙やカウンタ料金)のムラがある場合もある。社内の出力機器の最適化を図り、複合機を活用した提案をすることにより、実際に大きな効果をもたらしている成功事例もある。

ある企業では、約30台あったプリンタやFAX、コピー機を14台の複合機に集約。空いている複合機から自動的に印刷できるロケーションフリー印刷を実現したところ、印刷待ち時間や無駄な紙を大幅に削減することに成功した。同時に、出力機の設置スペースの削減やサプライ品管理負荷の軽減なども実現している。

出力機器の統合化を実現するための主力商材となる複合機では、リコーの『IPSIO SPシリーズ 7』やキヤノンの『Sateraシリーズ 8』、OKIデータの『COREFIDOシリーズ 9』、エプソンの『Offirioシリーズ 10』などがある。また、

複合機を提案するなら出力管理ツールと組み合わせることでより一層効果が増す。リコーの『Ridoc IO Analyzer 11』を利用すれば、ボタン1つで複数の出力機器からカウンター情報を収集できる。京セラミタの『MiBeliCa Print 12』を使えば、ICカードによる個人認証プリントで機密情報の漏えいを防げるようになる。出力関係のコスト削減は見落としがちなので、プリンタなどの出力機器の買い替えを検討している企業には、複合機を活用した出力機器の統合化を積極的に提案したい。

商材ファイル ⑦

●リコー

A4カラーレーザー複合機 IPSIO SP C301SF

プリンタ、コピー、ファックス、スキャナを搭載したA4カラーレーザー複合機。9,600dpi相当×600dpiの高画質出力が特長。トナーの交換や用紙の補給などが前面から操作可能なのでメンテナンスもスムーズに行える。



商材ファイル ⑧

●キヤノン

A4カラーレーザー複合機 Satera MF8450

カラー・モノクロともにA4毎分17枚の連続コピースピードを実現。用紙を節約し、効率よく作成する自動両面印刷機能を搭載。複数の原稿を1枚にまとめる多彩なコピー機能など、コスト削減に役立つ機能が多数用意されている。



商材ファイル ⑪

●リコー

カウンター集計ツール Ridoc IO Analyzer

複合機やプリンタなど複数の機器の利用状況を的確に把握できる、スケジュール型カウンター集計ツール。サーバレスで簡単に集計が可能。またボタン一つで集計レポートを作成することもできる。



提案 3 メモリやHDDを使って既存のIT資産の増強を提案

企業の業務効率化を推進するうえでは、現在利用しているクライアントPCなどのIT機器に目を向け、それを低コストで今以上に快適に利用できるようにするソリューションを提案することも重要なポイントだ。その背景として、メモリやHDDが値下がりしたことに加え、ノートPCの高速化を実現するSSD (Solid State Drive)の低価格化が加速したことが挙げられる。

一方、数年前に購入したPCは、データ容量が増えてレスポンスが低下している可能性が高い。そのため、メモリを増設したり、HDDを入れ替えたりすることで、低コストで既存のPCのパフォーマンスが向上することは、企業にとって大きなメリットになるはずだ。

例えば、設計部門のCADやデザイン部門のグラフィック、CG、DTPなどで使用しているパワーマシンにメモリを増強することが可能になる。デスクトップPC用メモリではバッファローの『DDR2-SDRAM 13』、ノートPC用メモリではアイ・オー・データ機器の『S.O.DIMM SD X667-H1G 14』やエレコム の『S.O.DIMM S.O.DIMM ET800-N1G 15』など各社商材種類も多い。

特にSSDは、HDDのように駆動するディスクを持たないため、起動時間を大幅に短縮できる利点がある。ちなみに、レノボの『ThinkPad X60』でテストしたところ、Windows XPの起動時間が3割強、ログインから完全起動では約半分に短縮された。これにより、既存のノートPCの高速化と大容量化を同時に実現。もともと実装されていたHDDは外付けバックアップ用に有効活用できる。SSDでは、バッファローの『SHD-NSUMシリーズ 16』やエレコムの『ESD-I2SAシリーズ 17』、グリーンハウスの『GH-SSD32GS-2SP 18』などの商材がある。

また、最近のUSBメモリには、セキュリティ対策が施されている。暗号化機能を搭載したアイ・オー・データ機器の『ED-E4GA 19』やエレコムの『MF-EU2シリーズ 20』、サンワサプライの『UFD-RSHシリーズ 21』、ウィルススキャン機能も搭載したバッファローの『RUF2-HSCUW 22』など商材も豊富で、大容量のものでも価格が下がっており、より提案しやすいといえるだろう。

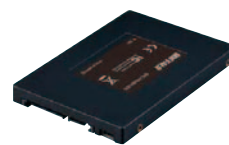
さらにノートPCによる作業効率をアップするために、ぜひ提案してほしい商材が、USBケーブルで簡単に接続できるサブディスプレイだ。アイ・オー・

商材ファイル ⑯

●バッファロー

2.5インチSerial ATA-SSD SHD-NSUM30G

SATAに対応したノートパソコンの内蔵HDDを交換するための内蔵型SSD。パソコンの起動が高速になり、さまざまなソフトウェアの操作やデータ転送も快適に行える。静音性の面でも効果を発揮する。



商材ファイル ⑲

●アイ・オー・データ機器

セキュリティUSBメモリ ED-E4GA

強固なパスワードロック「EncGate」とAES256bitによる自動暗号化機能を搭載した、セキュリティUSBメモリ。



データ機器の『LCD-USB7Xシリーズ 23』やバッファローの『FTD-W71USB 24』、日本サムソンの『SyncMaster U70 25』など商材も出揃ってきた。価格も手頃なので訴求力はあるはずだ。

提案 4 出張費削減の切り札 TV会議システムを売る

現在のように不景気で業績が低迷すると、社内での会議がやたらと多くなる傾向にある。しかし、複数拠点が点在している企業の場合、会議に参加するための出張コストや移動時間が膨れ上がるばかりで、頻繁に会議を開くことは

決して効率的とはいえない。

その点、出張費削減の切り札として、即効果の上がるTV会議システムは、まさにジャストタイミングの提案といえる。実際に導入すれば、出張コストや移動時間を飛躍的に削減できるので

顧客の理解も得やすい。

例えば、ある企業では、役員レベルの地方出張を10回に1回の割合でTV会議に切り替えを予定、1年半で投資金額を回収できると想定していたが、実際には予想以上に利用頻度が上が

ったので1年以内に元が取れるようになったという。さらに特筆すべき点は、これまで移動に費やしていた無駄な時間を他の仕事に割り当てられるようになったことで、仕事の効率が格段にアップしたことだ。コスト削減と同時に業務効率の向上も実現したのである。

TV会議システムの主な商材としては、マイクロソフトの『RoundTable²⁶』がある。『Office Communications

Server 2007²⁷』か『Office Live Meeting 2007²⁸』と併用することで、PowerPointなどのデータを共有しながら、PC上で手軽に会議ができるのが大きな魅力だ。

経営トップに評判が良いのが相手の表情の変化もリアルに読み取れるハイビジョン対応のTV会議システムだ。ポリコムの『Polycom HDXシリーズ²⁹』は、代表的な製品で人気を集めている。



提案 5 不要機器の最適な処理で顧客の信頼獲得

社内の機器の入れ替えにともなって不要機器を処分するという業務が発生するが、これらの処分には細心の注意が必要だ。企業が機器を廃棄処理する場合には、産業廃棄物の扱いとなり、所有していた企業側の責任で指定業者を選定。廃棄料を負担した上で処分し、さらに廃棄物管理表(マニフェスト

伝票)を法定期間中、管理・保存しなければならないのだ。それにも増して、廃棄は循環型社会の形成に逆行した行為となる。

そこでおすすめしたいのが、大塚商会の『PC買取サービス³⁰』と『データ消去サービス³¹』だ。これは不要機器を廃棄せず、再利用やりサイクルを目的に

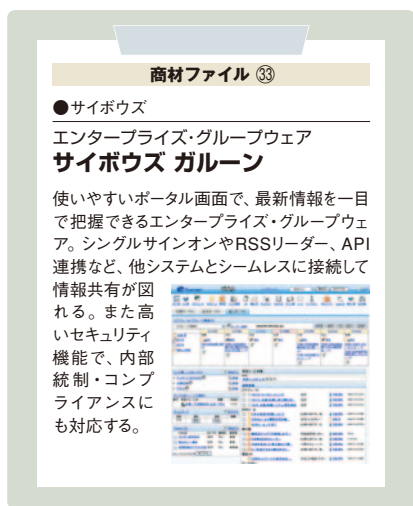
買い取るサービスだ。

廃棄処分費用が不要となり、処理コストを抑制。データ消去体制も万全で専用のソフトウェアや物理的破壊で完全にデータを消去し、情報漏えいの心配もない。エンドユーザ様の信頼を高めることでビジネス拡大のきっかけにもなるだろう。

提案 6 今こそ社内の情報共有が急務 グループウェア導入を提案

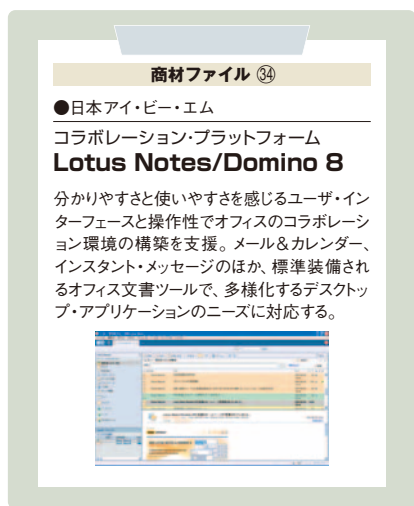
経済情勢が厳しい時代においては、迅速な情報伝達によって生産性向上に寄与する提案をすることも重要だ。そのために多大な効果をもたらすのが、グループウェアである。

主な特徴として、グループ内のコミュニケーションを円滑化する電子メール機能、グループ全体で情報の周知徹底を図る電子掲示板機能、各種文書をデータベース化して共有できる文書共有機能、メンバー間でスケジュールを共有するスケジュール機能などがある。こうしたグループウェアの諸機能を有効活用することにより、社内のペーパーレス化にも大きく貢献し、結果的に紙代やコ



ピー代などのコスト削減にも結びつく。

商材も、サイボウズの『サイボウズ ガルーン³²』や『サイボウズ Office 8³³』、



日本アイ・ビー・エムの『Lotus Notes/Domino 8³⁴』、OSKの『eValue NS³⁵』など豊富に揃っている。いずれも低価格

化が進み、以前に比べて使いやすさが大幅にアップしている。このうち、『eValue NS』は、「ドキュメント管理」「ワークフロー」「スケジューラ」「コミュ

ニケーション」といった各種機能のWebパーツ化を実現しており、それらをフルセットで導入することもできるし、各パーツを他のグループウェアのサブ

メニューとして設定することもできる。そのため、企業規模や目的に合わせて最適なグループウェアの仕組みを導入提案することが可能になる。

不況期は守りも大事だ 削減できないもの ~セキュリティや法規制への対応と社員教育~

一層増すセキュリティの重要性

ここまでは、主にコストダウンに結びつく商材を中心に話を進めてきたが、すべてコストダウンするわけにはいかない。景気が低迷しているときでも、セキュリティ対策や法規制への対応など、企業を取り組まなければならないこともある。むしろ、景気が悪化したことでネットによる犯罪が増える危険性もあり、景気後退期の今こそ企業は守りをしっかりと固める必要がある。

現在では、J-SOX法に対応した内部統制環境を整備し、情報漏えいなどのセキュリティ対策を強化することが社会的責務として求められている。大塚商会では、そのための商材も豊富に揃え

ている。例えば、先に紹介した『eValue NS』では、アクセス権設定によるドキュメント管理や申請・承認の電子化などにより、内部統制基盤を容易に構築することができる。また、クオリティのIT資産管理ツール『QND Plus³⁶』では、Winnyなど認めていないソフトウェアによる機密情報の漏えい防止などを実現する。

このほか、PFUのドキュメントファイリングシステム『楽²ライブラリ Document Manager³⁶』、トレンドマイクロのホステッド型e-mailセキュリティソリューション『InterScan Messaging Hosted Security³⁷』、日立ソフトの情報漏えい防止ソリューション『秘文³⁸』、エムオーテックスのネッ



トワーク統合監視ツール『LanScope Cat⁴⁰』、網屋のサーバアクセスログ監査ツール『ALogコンバータ⁴¹』など、内部統制整備に役立つ豊富な商材を用意している。

人材教育はeラーニングで売り込む

今いる人材で戦い抜くためには、社員教育も重要だ。そこでいま社員教育を実践するうえで、大きなトレンドになっているのが、パソコンやネットワークを利用して教育を行うeラーニングである。受講者は自分の都合のよい時間に学習ができ、研修主催者はスケジュールの調整が不要になり、双方が時間を有効利用できる利点がある。

また、受講状況や試験結果などが自動的に記録されるので、進捗管理や成績管理が容易に行えるため、管理者の

負荷が大幅に軽減される。そのうえ、会場費や講師費用、移動費、教材費などをかけずに、遠隔地も含めて専門的な教育を手軽に行えるので、コスト削減にも貢献する。

例えば、システム・テクノロジー・アイのeラーニングサービス『iStudy⁴²』の「コンプライアンス事例で学ぶ情報セキュリティコース」では、情報セキュリティの必要性について、利用者や管理者の身近で起こる事例を交えながら、わかりやすく解説する。

また、ビジネススキル系のコースとしてはOSKが提供している『EasyLearning Express⁴³』の「生産性を上げるタイムマネジメントコース」では、生産性に大きく影響するタイムマネジメントにより、仕事を効率的・効果的に処理するための考え方と技術を学ぶことができる。

特に現在は『iStudy』や『EasyLearning Express』のように教育コンテンツをASPサービスとして提供するケースが増えているので、初期のシステム構築費用や保守費用を抑えることもできる。

大塚商会BP事業部が選んだ **いま売れる商材** 50

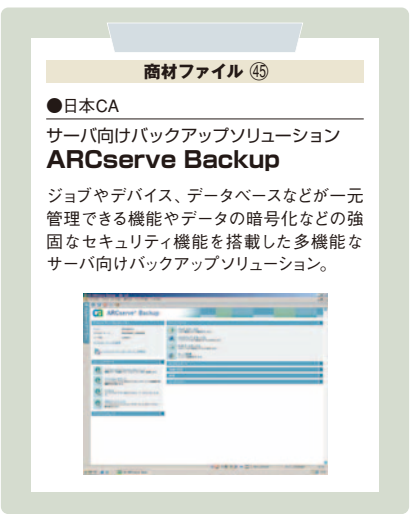
今回は大塚商会BP事業部が、不況期に売れる商材として50のアイテムを選びすぐった。それをカテゴリー別に紹介したのが下記のリストである。不況期の訴求ポイントは、コストダウンと業務効率化プラス即効性だ。今回紹介したアイテムは、いずれもその条件に合致する商材である。パートナー様は、ぜひこのリストを参考に積極的な提案を進めていただきたい。

攻めの提案	提案1：今こそサーバ統合の売り時だ		攻めの提案	提案4：出張費削減の切り札 TV会議システムを売る	
	サーバ・ストレージ	中小規模システムにフィットするブレードサーバ 1 日本ヒューレット・パッカド BladeSystem c3000		次世代ビデオ会議ソリューション 26 マイクロソフト RoundTable	
		ブレードもストレージもオールインワンで提案 2 日本アイ・ビー・エム BladeCenter S		組織用ソフトウェア ベースの VoIP 基盤、IT の業務を管理 27 マイクロソフト Office Communications Server 2007	
		設置環境、運用性、拡張性に応えるPCサーバ 3 NEC Express5800		RoundTableと連携するホスト型Web会議用ソフトウェア 28 マイクロソフト Office LiveMeeting 2007	
		高いRAIDディスク管理性を有する仮想化ストレージ 4 日本ヒューレット・パッカド StorageWorks EVA		HDテレビ会議システム 29 POLYCOM HDXシリーズ(7000 or 8000)	
	仮想化ソフトウェア	実績と信頼の仮想化ソフトのスタンダード 5 ヴィエムウェア VMware		提案5：不要機器の最適な処理で顧客の信頼獲得	
		Windows Server 2008に搭載の仮想化機能 6 マイクロソフト Hyper-V		買取・データ消去サービス 30 大塚商会 PC買取サービス	
	提案2：コスト削減の特効薬 出力機器の統合化を提案しよう			専用ソフトや物理破壊でデータを完全消去 セキュリティ対策も万全 31 大塚商会 データ消去サービス	
	複合機	Win/Mac環境に対応し省エネ機能で環境負荷低減に貢献 7 リコー IPSIO SPシリーズ C301SF		提案6：今こそ社内の情報共有が急務 グループウェア導入を提案	
		コンパクト、高機能を両立したA4サイズ対応カラー複合機 8 キヤノン Sateraシリーズ MF8450		グループウェア	オフィスの情報共有と高いセキュリティ機能を誇るグループウェア 32 サイボウズ サイボウズ ガルーン
		5年間無償保証のA3対応カラー複合機 9 OKIデータ COREFIDOシリーズ MC860dn			総合型グループウェアの最新版 33 サイボウズ サイボウズ Office8
		高画質なA3対応カラー複合機のベーシックモデル 10 エプソン Offrioシリーズ LP-M5000FZ			コラボレーション・プラットフォーム 34 日本アイ・ビー・エム Lotus Notes/Domino 8
	出力管理ツール	クライアントで実現するスケジュール型カウンター集計ツール 11 リコー Ridoc IO Analyzer			企業規模や目的に合わせて最適な仕組みの導入が可能 35 OSK eValue NS
		非接触ICカードによる個人認証プリントで情報漏えいを防止 12 京セラミタ MiBelCa Print		ドキュメント管理 36 PFU 楽 ² ライブラリ Document Manager	
提案3：既存のIT資産の増強を提案		守りを固める提案	セキュリティ	ホステッド型e-mailセキュリティソリューション 37 トレンドマイクロ InterScan Messaging Hosted Security	
PCメモリ	高性能PCの機能を引き出す高速メモリ 13 パッファロー DDR2-SDRAM D2/800-1G			オフィスのIT資産管理ツール 38 クオリティ QND Plus	
	最大5.3GB/sの大量データを高速転送 14 アイ・オー・データ機器 S.O.DIMM SDX667-H1G			情報漏えい防止ソリューション 39 日立ソフト 秘文	
SSD	64bitPCを快適な操作環境に実現する 15 エレコム S.O.DIMM ET800-N1G			資産管理・内部情報漏えい対策システム 40 エムオーテックス LanScope Cat	
	ノートPCの2.5インチ内蔵HDDと交換可能 16 パッファロー SHD-NSUMシリーズ SHD-NSUM30G		アクセスログ監視ツール 41 網屋 ALogコンバータ		
USBメモリ	読込150MB/s書込90MB/sの高速転送を実現 17 エレコム ESD-I2SAシリーズ ESD-I2128SA		人材教育	いつでも、どこでも自由に学べる学習環境を提供 42 システム・テクノロジー・アイ iStudy	
	最大4チャンネルに同時アクセスを可能にしたSSD 18 グリーンハウス GH-SSD32GS-2SP			グループウェアと連携したeラーニングソリューション 43 OSK EasyLearning Express	
	自動暗号化機能搭載のセキュリティUSBメモリ 19 アイ・オー・データ機器 ED-E4GA		バックアップ	遠隔地へのバックアップをリアルタイムで実現 44 アール・アイ Secure Back	
	強力な暗号化方式「AES128bit」を採用したUSBメモリ 20 エレコム MF-EU2シリーズ MF-EU204GBK			迅速なデータバックアップ・リカバリを実現 45 日本CA CA ARCserve Backup	
サブディスプレイ	スライド収納タイプのセキュリティUSBメモリ 21 サンワサプライ UFD-RSHシリーズ UFD-RSH8G2SV		災害対策	携帯電話を使った緊急連絡網サービス 46 大塚商会 KinQ.jp	
	ウイルススキャン・全自動暗号化機能搭載USBメモリ 22 パッファロー RUF2-HSCUW RUF2-HSC8GUW			サーバの冗長化を容易に実現するHAクラスタソフト 47 サイオステクノロジー LifeKeeper	
	USB/バスパワーで手軽にマルチディスプレイを実現 23 アイ・オー・データ機器 LCD-USB7Xシリーズ		オフィス商材	LED照明として業界最高の発光率 48 FAWOO LumiDasシリーズ	
	コンパクトでUSBを挿すだけで簡単設置の7型サブ液晶 24 パッファロー FTD-W71USB			レーザープリンタのトナー使用量を最大50%削減するソフトウェア 49 スブライン・ネットワーク TonerSaver	
USB/バスパワーの7型ワイドWVGAマルチディスプレイ 25 日本サムスン SyncMaster U70	「プラズマクラスター」技術により強力な空中除菌を実現 50 シャープ プラズマクラスターイオン発生機 IG-840-W				

万が一に備えよう データバックアップと災害対策

企業活動を継続していくためには、バックアップ環境の整備や災害対策も欠かせない。企業資産を安全・確実に保護するバックアップソリューションでは、アール・アイの『Secure Back 44』、日本CAの『ARCserve Backup 45』を始めとする豊富な商材を取り揃えている。また、サイオステクノロジーのHAクラスタソフト『LifeKeeper 47』のように、サーバの冗長化を容易に実現し、万一システム上のトラブルが生じた際に即座に

予備機に業務を引き継げる環境を提案することもできる。さらに災害対策として、NHKメディアテクノロジーが提供している携帯メール一斉配信サービス『KinQ.jp 46』も大きな効果をもたらす。地震や台風などの災害発生時の通信・通話が混雑している状況でも、迅速・確実・簡単に携帯メール配信を実現するサービスで、社員の安否確認や緊急招集をしたい場合などに役立つ。



環境対応への提案 ~変わるモバイル環境、変わるオフィス環境~

高速モバイル通信への対応

企業の生産性向上に寄与していくためには、将来のビジネスインフラの活用を見据えた提案をすることも重要だ。例えば、2月末に試験運用が開始された次世代の高速無線通信技術であるモバイルWiMAXは、最大75Mビット/秒の伝送速度を実現し、ノートPCなどのモバイル端末がADSL並みの速度と料金でデータ通信できるようになる。今後、ノートPCにモバイルWiMAX対応機種が登場することが確実なことから、ビジネスマンの注目度は高い。このような高速モバイル通信を活用することで、社内と社外の境目がなくなり、あたかもデスクトップ上にあるような感覚でモバイルPCから社内サーバにあるアプリケーションシステムを利用することが可能になる。その意味では、この先、モバイル対応のさまざまな商材が出てくるので目が離せない。

オフィスの省エネ・環境対応

今後はオフィスの省エネ・環境対応も大きなビジネスになる。というのも、現在、世界的に地球温暖化が重要な問題として取り上げられており、「京都議定書」のなかで日本はCO2を6%削減することを約束しているため、大手企業などに対して政府が早急なCO2削減対策を求めているからだ。そして、企業がCO2の排出量を削減するための一番の早道は、電気使用量を削減することである。そこで注目を集めているのが、LED照明だ。蛍光灯などに比べて消費電力を30%以下に抑えられるので、CO2削減に大きく貢献する。特にFAWOO社のLED照明『LumiDasシリーズ 48』は、長寿命なので買い替える手間も省け、発熱量や紫外線も少ないので人体や食料品への悪影響も少ないといったメリットがある。さらに、スブライン・ネットワークの『TonerSaver 49』を利用すれば、プリン



タドライバの技術を応用して開発した独自のアルゴリズムを用いて、あらゆるメーカーのレーザープリンタのトナー消費量を年間で最大50%も削減することが可能になる。また、社員の健康を守るという観点から、シャープの『プラズマクラスターイオン発生機 50』という商材も取り扱っている。空気中にイオンを放出し、浮遊するカビ菌やウイルスを分解・除去してくれるので、常に清潔なオフィス環境で仕事に専念できるようになる。 **BP**

第2特集

ノートPCの ビジネスチャンス 到来

PC市場の主役は デスクトップからノートへ

市場調査会社の報告書によれば、2008年後半、世界のノートPCの出荷台数がデスクトップPCの出荷台数を上回った。これまでこうした出荷台数の逆転が起こるのは2011年と予想していたが、昨年の出荷台数の伸びは予想をはるかに上回った。その最大の理由は、「ネットブック」と呼ばれる小型・軽量・低価格のノートPCが人気を呼び、好調な売れ行きを見せたためだ。この出荷台数の伸びは一過性のものではなく、今後も続く予想される。PCのトレンドは、確実にデスクトップPCからノートPCに移っている。ここではA4・B5サイズのノートPCから「ネットブック」まで、モバイルPCのビジネスチャンスと販売のポイントについてまとめる。

ネットブックの台頭とノートPC

■ 不況下でも好調な売れ行きを見せる ノートPC

市場調査会社の報告書によれば、急速に悪化した景気の影響により、2008年第4四半期、世界のPC出荷台数は前年同期比でマイナス0.4%。じつに6年ぶりに減少に転じたという。

厳しいPC市場の中で伸長しているのがノートPCだ。2008年第3四半期、世界のノートPCの出荷台数は、四半期ベースで初めてデスクトップPCを上回った。2008年のPC市場で出荷台数が伸びた最大の理由は、「ネットブック」と呼ばれる小型・軽量・低価格のノートPCが人気を呼び、好調な売れ行きを見せたためだ。これは決して一過性の傾向ではない。これまでノートPCの出荷台数は年率20%前後の成長率で伸びており、市場調査会社では今後もこうした傾向は続く予想している。

拡大基調になっている理由は、ノートPCの高性能化にある。これまでノートPCの性能は、デスクトップPCより劣るとユーザには認識されていた。しかし、CPUやチップセットなど部品が高性能化したことにより、今やノートPCはデスクトップPCと比べて遜色なく、メインマシンとして日常業務も十分こなせる実力機になっている。

さらにインターネットの普及によるユビキタス社会の到来も大きな要因となっている。現在ではPCはインターネットに接続して使用することが常識となっている。こうした使用環境においてはデスクトップ型より持ち運べるノート型のほうが使い勝手がよいということに

■ ノートPCとネットブックの主な違い

ノートPC		ネットブック
Officeソフトなどのビジネス系ソフト、WEBブラウジング、メール送受信、社内サーバへのアクセス	搭載機能	WEBブラウジング、メール送受信、ブログの更新など
7~20万円	平均価格帯	5~7万円
13~15	ディスプレイサイズ(インチ)	8.9~10.5
ビジネス コンシューマ	対象	コンシューマ
Windows Vista (ダウングレードにてWindows XPの選択も可)	標準OS	Windows XP home Edition
HDD	主な記憶装置	SSD
250~500GB	記憶容量	120~160GB

※2009年3月末現在

気づく。ノート型ならいつでもどこでもアクセスすることができるのだ。情報収集と判断のスピードが要求されるビジネスの世界では、情報を取るために毎回机に戻らなくてはいけないデスクトップPCと比べてこの差は決定的だ。

■ 爆発的なブームとなった ネットブック

次に2008年後半にノートPCの出荷台数の伸びを支えた「ネットブック」ブームについて考えてみたい。

「ネットブック」と呼ばれるノートPCは、インテルのAtomプロセッサを搭載し(日本HPのVIAはC7プロセッサを搭載している)、小型・軽量・低価格を特徴と

する。8~10型程度の小型液晶ディスプレイと小型のキーボードを搭載し、一般的なノートPCに比べれば機能は限られるが、PCに必要なインターフェースをひと通り備えている。

この小型・軽量・低価格を特徴とするノートPCは、主にWebサイトの閲覧やメールの送受信といった用途を想定して開発されたため「ネットブック」と呼ばれるようになった。「ネットブック」の人気に火を付けたのは台湾ASUS社の『EeePC』だが、その後も、台湾エイサー社の『Aspire one』などさまざまな機種が続々と登場。昨年後半から大手PCメーカーもこの市場に参入し、一大ブームとなった。



PC関連の販売店が並ぶ秋葉原でも店頭的主力商品はノートPCになっている

■なぜネットブックが売れるのか？

なぜ「ネットブック」が売れるのか。第一の理由は「ネットブック」が持ち運びに適しているという点にある。これまでのノートPCは、モバイル向けといっても本体はB5サイズで重量は1kgを超えるものがほとんどだった。そのため鞆に入れて持ち運ぶには大きく、重すぎたのである。「ネットブック」は機能

を限定することにより、小型・軽量化を実現し、従来のノートPCのデメリットをクリアした。

第二の理由は「ネットブック」の価格だ。あらかじめ用途を限定し、必要な機能だけを搭載することで低価格を実現。現在、販売されている価格帯は5～7万円台が中心であり、比較的高価な製品でも10万円以下で購入することができる。

コンシューマ市場に限ればPCとは、

Webサイトの閲覧やメールの送受信のための道具であり、その用途に限った場合「ネットブック」の機能がノートPCに比べて劣っていることを気にする人は、それほど多くないだろう。

その他に「ネットブック」が人気を集めた要因として挙げられるのは、インターフェースにある。これまでもマイクロソフトが提唱するUMPC (Ultra Mobile PC) やインテルが提唱するMID (Mobile Internet Device) など「ネットブック」と同様のコンセプトの製品は存在したが、これらはノートPCと携帯電話の間に位置する製品であり、従来のノートPCのインターフェースとの違いが一般ユーザに受け入れられなかった。しかし、「ネットブック」はノートPCの機能を削り、そのまま小型・軽量化しているため、キーボードなどほぼ同等のインターフェースを持っている。「軽くて小さい低価格なPC」。インターフェースが同等であることによって、一般ユーザには、そのような認識のもとに広く受け入れられたことが人気

の要因だった。

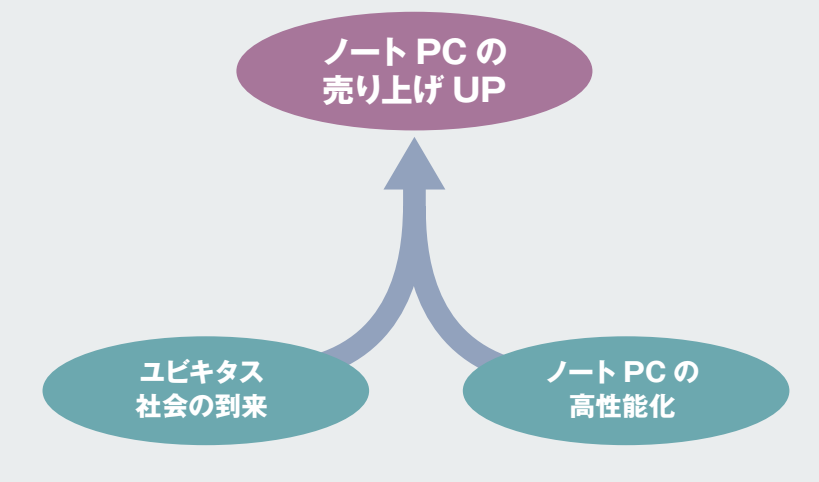
現在、「ネットブック」のPC市場に占める割合は約25%に達しようとしている。こうした「ネットブック」ブームは、上記のような理由から一過性のものではなく、今後も続くものと思われる。

■ビジネス市場ではノートPCが主流

しかし、「ネットブック」がノートPCを駆逐することはおそらくないだろう。今後もビジネス市場においては、日常業務をストレスなくこなせるフル機能のノートPCがあくまで主流である。

新規のPC購入にあたって価格の面から「ネットブック」の話題をするエンドユーザ様が出てくる可能性もあるが、これまでに見てきたように「ネットブック」の特質を理解したうえで、お客様に最適なPCの新規導入や入れ替えの提案をしていただきたい。「ネットブック」は確かに安く導入しやすいが、メインマシンと

■ノートPCの売り上げ増加の要因



しての導入を検討しているお客様にとっては無駄な投資になる可能性が高い。ほとんどの「ネットブック」は、初期導入OSとして「Active Directory」をサポートしていないWindows XP Home Editionを搭載していることからそれは明らかだろう。

ただし、営業などで外出が頻繁にあ

り、外からでもWebサイトの閲覧やメールの送受信を行うサブマシンの導入を検討しているお客様にとっては「ネットブック」は最適な選択肢になるかもしれない。

このようにPCに関する提案も利用するTPOに応じて最適な商材をお客様に提案することが肝心だ。

ビジネス使用の必須条件はセキュリティ対策

■ノートPCに必須のセキュリティ対策

次にノートPCに特有のセキュリティの問題について考えてみる。据え置き型のデスクトップPCとは異なり、持ち運ぶことを前提としたノートPCは、紛失・盗難によるデータの流出という危険性を考慮しながら使用しなければならない。紛失や盗難に遭ったノートPCから個人情報や機密情報などのデータ流出事故は頻繁に発生しており、企業の信頼失墜につながっている。

情報漏えいリスクを回避するセキュリ

ティ対策としては、保存されている重要なデータを暗号化ソフトウェアによってあらかじめ暗号化しておく方法が有効だ。個人情報や機密情報など、重要なデータをファイル単位やフォルダ単位で暗号化しておけば、万一紛失や盗難に遭った場合でも情報漏えいのリスクを回避することが可能となる。

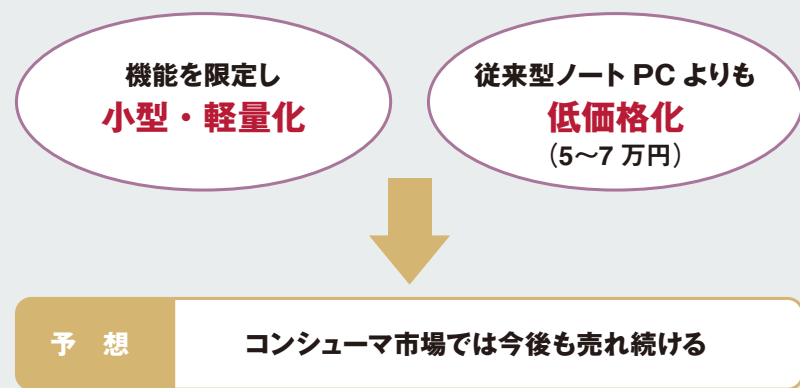
■Windows BitLockerでドライブを暗号化

データをファイルやフォルダ単位で暗号化する機能はWindows XPなどのOSに標準で搭載されているので、それ

らの機能を利用してもよいだろう。

さらに高度な暗号化によるセキュリティ機能としては、Windows Vistaから搭載されたWindows BitLockerドライブ暗号化の機能がある。これはファイルやフォルダ単位ではなく、ドライブ全体を暗号化する点が従来のWindowsの暗号化機能と異なる点だ。全体を暗号化しておくことでエンドユーザが暗号化すべきファイルやフォルダを指定し忘れる危険性を回避することができる。この機能によって、あらかじめ起動ドライブを暗号化しておけば、紛失や盗難に遭った場合にもキーがなけ

■ネットブックが売れた理由



ればOSが起動しないため、データが流出する可能性はかなり低くなる。

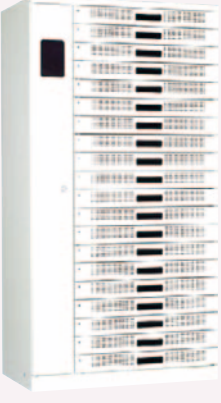
しかし、ファイルやフォルダ単位、あるいはドライブの暗号化でも万全の対策とは言えない。ハードディスクを丸ごと暗号化するソフトウェアの運用が最も効果的だ。丸ごと暗号化しておけば、紛失や盗難に遭ったノート型PCからハードディスクを抜き取られ、他のPCに接続されてもハードディスクは認識されないため、データを盗み取られる可能性は低くなる。ハードディスク暗号化ソフトウェアとしては、『Symantec Endpoint Protection』『McAfee Endpoint Encryption』などがある。

販売店の皆様は、ノートPCの導入を検討しているお客様に対して、このようなハードディスク暗号化ソフトウェアも併せて提案していただきたい。

■ リモートアクセスでデータを消去

暗号化に頼らないセキュリティ対策も考えられる。紛失あるいは盗難に遭ったノートPCからのデータ流出を完全に

セキュリティ



ノートPCの持ち出しを管理できるセキュリティキャビネット

●河村電器産業
KSCC-1A20

20段の引き出しにノートPCなどのIT機器を保管できるセキュリティキャビネット。利用する際には、ICカード認証を使い、誰がいつ持ち出したのかを管理することができる。ネットワークによる監視、制御も可能なので、管理パソコンで利用履歴の記録、リアルタイム確認が可能となる。管理者が少なく機器の管理が難しい支店や営業所などでの活用が広がっている。

防ぐためには、紛失・盗難に遭った時点でPC内に保存されているデータを消去するしかない。そこでリモートアクセスによって遠隔操作し、データを消去するセキュリティ対策ソリューションも登場している。その一例がトリスター社の『TRUST DELETE』だ。

同製品の運用にあたっては、個人情報や機密情報などをあらかじめ消去対象データとして設定しておく。紛失・盗難に遭った場合、別のPCから管理サ

ーバにデータ消去命令を送信することで、ノートPCがインターネットに接続した際に管理サーバを通じてリモートで対象データを消去するのだ。

ノートPCが一定時間インターネットに接続しなかった場合でも、消去対象データを不可視状態にする仕組みも持っている。こうしたセキュリティ対策の商材もぜひ併せて導入をすすめてみて欲しい。

これからのビジネスチャンス

■ 2009年、ノートPCはさらに売れる

ノートPCは販売店の皆様にとって今後も有力な商材となるはずなので、これからの環境の変化とビジネスチャンスについてまとめておく。

ノートPCがPC市場の主役になりつつあり、さらに出荷台数増加に大きく寄与すると思われるのは、2010年以降に全国規模の商用サービスが始まると言われる無線WAN環境に期待が集まっていることが大きな要因だ。

現在、ほとんどのノートPCユーザは、HSDPA対応のデータ通信カードを用いて、外出先でインターネットにダイヤルアップ接続しているが、全国規模の無線WAN環境が整えば、HSDPAよりはるかに高速な通信スピードで常時接続が可能になる。

日本の将来の無線WAN環境としては、モバイルWiMAX、次世代PHS、LTE(Long Term Evolution)の3つの規格が、商用サービス開始に向けてしのぎを削っている。3つの規格は競合

関係にあるが、物理層は共通であるなど技術的には類似点が多い。異なるのはサービスを提供するプロバイダである。モバイルWiMAXのサービスは、KDDIやインテルなどが株主となっているUQコミュニケーションズによって提供される。次世代PHSのサービスを提供するのはウィルコムだ。携帯電話事業者は、LTEのサービス提供に向かうことが確実視されている。現時点ではどのサービスが主流になるのか、何とも言えないところだが、いずれも2009年春より試験サービスを開始するとしており、動向が非常に注目されるところである。

一足早く試験サービスが始まったのは、UQコミュニケーションズが提供するモバイルWiMAXだ。2月26日から東京23区、および川崎市と横浜市で、無料試験サービスが始まっている。この無料試験サービスの期間は6月末までとなっており、7月1日からは首都圏、京阪神、名古屋エリアで有料サービスを開始するとしている。UQコミュニケーションズによれば、試験サービス開始時の基地局は500。有料サービス開

始時の7月1日には基地局を10倍に増やし、首都圏、京阪神、名古屋エリアをカバーする。また2012年度末までに全国主要エリアをカバーするとしている（人口カバー率は90%以上になるという）。次世代PHS陣営、LTE陣営からも近いうちに事業プランが明らかにされるはずであり、まさにモバイル環境の変化は目が離せない状況だ。

■ “どこでもオフィス”の理想がいよいよ現実に

無線WAN環境が全国規模で整えば、ノートPCの価値はさらに増すに違いない。いつでもどこでもインターネットに接続し、高速データ通信の恩恵を受けることが可能になる。このようなデータ通信環境の変化は、ビジネスの世界に大きな変革をもたらすものと予想される。ノートPCとデータ通信カードさえあれば、そこがオフィスになる——これまでも語られてきたが、全国規模の無線WAN環境の整備にともなって、そのような理想はいよいよ現実のものになる可能性がある。

常時接続環境が整備されるにつれて、ノートPCでこれまで以上にニーズを拡大していくはずだ。また2009年末には、次期主力OSとなるWindows 7もリリースされる予定であり、クライアントPCは待望の入れ替え時期を迎える。

以上の2つの要因から、2009年後半は、ノートPCの販売は大きなビジネスチャンスが到来するだろう。販売店の皆様は、こうした状況を踏まえてこれまで以上にノートPCの販売に注力したい。

BP

■ ノートPCを利用する上で役立つセキュリティソフトウェア



●マカフィー McAfee Endpoint Encryption

フルディスク暗号化で高いデータセキュリティを確立。システム管理者によるファイル、フォルダ暗号化の管理も可能。さらにアクセス制御機能も備えている。



●シマンテック Symantec Endpoint Protection

ディスク暗号化やウイルス対策、スパイウェア対策、ファイアウォール、侵入防止、デバイス制御、アプリケーション管理などの防御技術をシームレスに統合したソフトウェア。



●トリスター社 TRUST DELETE

紛失や盗難にあったPCに保存されている個人情報や機密データをリモートアクセスにより不可視化し、遠隔操作で消去、抹消できるソフトウェア。企業PCの紛失・盗難による個人情報の流出を防ぐ。

■ 無線WAN環境を提供する3つの規格

モバイル
WiMAX次世代
PHS

LTE

2009 年春から試験サービス開始

ノートPCのビジネスチャンス到来

2010 年以降に全国での商用サービススタート

マイクロソフトの支援策を利用して販売促進をしよう Windows Server 2008 Hyper-Vの仮想化認定プログラムで支援 市場に眠るサーバ統合ニーズを狙おう

仮想化という「難しい技術」というイメージを持つパートナー様は少なくない。確かに、仮想化技術のすべてを理解するのは難しいかもしれないが、サーバ統合を行う作業は、それほど難しくはない。マイクロソフトでは、仮想化戦略としてMicrosoft 360 Virtualizationを打ち出しており、仮想化技術の普及に向けたさまざまな支援策を実施している。こうした支援策を利用して、Windows Server 2008 Hyper-V（以下Hyper-V）をエンドユーザ様に対して積極的にご提案いただきたい。

マイクロソフトの 仮想化戦略

マイクロソフトは2008年10月、同社の仮想化戦略となるMicrosoft 360 Virtualization（図1）を打ち出した。4つの仮想化からなるこの戦略は、仮想化技術によって増え続けるサーバへの対応、複雑化するデスクトップ管理、アプリケーション管理コストの増大、膨大なクライアントPCのセキュリティ対応といった近年増え続ける企業の課題の解決をめざしたものだ。

増え続けるサーバへの対応という点では、Hyper-Vによるサーバの仮想化

が最適なソリューションとなる。

ここではまず、Hyper-Vによるサーバの仮想化やサーバ統合につきまとう、いくつかの誤解を解いていくことから始めたいと思う。

仮想化技術による サーバ統合は難しい

仮想化技術という「難しい技術」というイメージを持つパートナー様が多いのではないだろうか。これが第一の誤解だ。確かに、仮想化技術のアーキテクチャーをすべて理解するのは、非常に困難である。しかし、Hyper-Vの仮想化技術によってサーバを統合する

作業は、決して難しいものではない。ハイパーバイザー型の64ビット仮想化技術であるHyper-V（図2参照）は、64版に対応したサーバにWindows Server 2008を導入すれば、自動的に使用可能になる。

第二の誤解は物理サーバから仮想サーバへの移行作業にも、難しいイメージを持つ場合が多いことだ。実際に仮想化を行う場合には、システムの運用管理の集中化を実現するSystem Center Virtual Machine Manager 2008を利用すれば、わかりやすいGUIの画面で、簡単に仮想化を実現することができるのだ。パートナー様にはぜひ「仮想化は難しい」というイメージを払拭していただき、積極的な提案に注力して欲しい。

そして、仮想化技術は大規模エンタープライズサーバ向けの技術である、という誤解や、中小規模サーバではコ

スト削減メリットを得られない、という誤解も、多くのパートナー様が抱いているようだ。しかし、Hyper-Vは、決して大規模エンタープライズサーバだけに適した技術ではない。むしろ中小規模サーバから、大規模エンタープライズサーバまで幅広くカバーするのが、同製品の特徴だ。また、WindowsをゲストOSとして使用する場合、他社の仮想化技術に比べて、かかるコストは3分の1程度ですむ。

Windowsベースであることが多い中小規模サーバの統合において、特にコスト削減メリットを発揮するのが、大きな特徴とも言える。

サーバ統合の需要と ビジネスチャンスは大きい

仮想化技術によるサーバ統合ということが叫ばれるようになって久しい。そのことから、サーバ統合には、もはやビジネスチャンスは残されていないのではないか、という印象を持っているパートナー様もいるかもしれない。しかし、そうした認識は誤っている。マイクロソフトによれば、現在、企業内で稼動しているサーバのうち、60万台以上が、すでにライフサイクルを終えたWindows NT Server、Windows Server 2000ベースのものであるという。こうしたサーバのマイグレーションは、あらゆる企業で緊急の課題になっている。

古いサーバハードウェアの上で稼動しているWindows NT Serverや

■図3 技術者育成 施策の強化



■図4 MCTS:仮想化認定プログラム — 技術者、セールス向けの2つのプログラム



Windows Server 2000。これらを最新のサーバハードウェアにマイグレーションする際に役立つのが、Hyper-Vだ。

Hyper-Vは、ゲストOSとしてWindows Server 2008、2003 SP2、2000 SP4をサポートしている（マイクロソフトは動作保証をしていないが、実際にはWindows NT ServerもゲストOSとして動作する）。そのほか、SUSE Linux Enterprise、RedHat Enterprise Linux、SolarisなどがゲストOSとしてサポートされる。

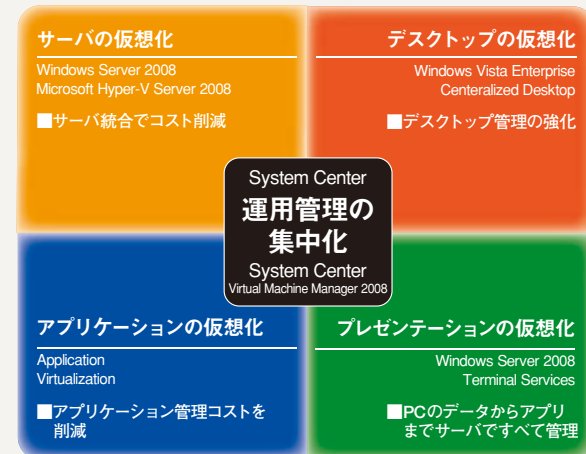
Windows Server 2003やLinux Serverからのマイグレーションを検討するケースも少なくないと予想されるので、市場には60～80万台のサーバが統合の対象として存在すると考えてよいと思われる。パートナー様は、そのような認識の上に立って、お客様にサーバ統合を提案していただきたい。

積極的に利用したい マイクロソフトの支援策

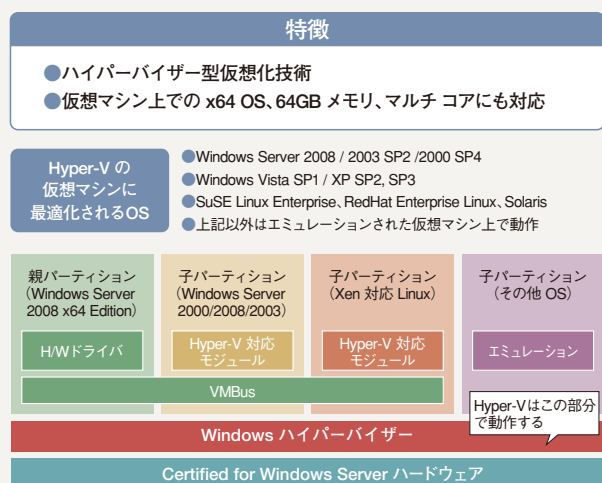
マイクロソフトでは、仮想化技術の普及に向けた図3、4のような数々の支援策を実施している。こうした手厚いサポートを受けられる点も、他社の仮想化技術とは大きく異なるところだ。

一連の施策により、Hyper-Vに精通した技術者はすでに1,500人以上にのぼるという。こうした技術者によるサポートは、マイクロソフトのパートナーを通じて提供される。言うまでもなく、大塚商会も多くの認定技術者を擁しており、パートナー様のセールスをサポートする万全の体制だ。販売店の皆様は、マイクロソフトが提供する各種トレーニングプログラムや、大塚商会が提供するサポートを最大限に活用して、Hyper-Vの提案を強化していただきたい。 **BP**

■図1 マイクロソフトの仮想化戦略
Microsoft 360 Virtualization



■図2 Hyper-V の仮想化





**Trend
Watch**

文：元麻布春男

Windows 7のSKU構成が明らかに そこから見えるMicrosoftの戦略とは

ここにきてMicrosoftのWindows 7に関するアップデートが活発さを増している。昨年10月末のプレビュー版公開に続き、1月には実質的なパブリックベータ版をリリース、2月3日にはWindows 7のSKU構成（提供されるエディション）が明らかにされた。

それによると、Windows 7で提供されるエディションはWindows Vistaと同じ6種類。うち1種類が新興国向けで、わが国では提供されない点もWindows Vistaと同様だ。

最上位に位置づけられるのは、大企業向けにボリュームライセンスのみで提供されるWindows 7 Enterpriseと、それに匹敵する機能を持ちながら店頭販売でも提供されるWindows 7 Ultimateだ。この位置づけは現行のVistaと変わらない。

変化が見られるのはその下のWindows 7 Professionalから。Windows Vista Businessの後継となるProfessionalは、下位のWindows 7 Home Premiumの全機能を包含した上で、ドメインネットワーク参加を含むビジネス向けの機能を持つ。

Vista BusinessにはMedia Centerが欠けているなど、Vista Home Premiumの完全上位互換とは言えない部分があり、時にユーザを悩ませたが、Windows 7ではこれが解消されることになる。Microsoftでは、ビジネスユーザ全般にWindows 7 Professionalを、コンシューマユーザ全般にWindows 7 Home Premiumを推奨するとしており、この2つのエディションで大半のユーザをカバーできると考えている。

最も大きな変更は、Home Premiumの下位エディションとして提供されてきたHome Basicが新興国向けのSKUとなり、わが国をはじめとする先進国の市場から

姿を消すことだ。その代わりに最下位のSKUとして、Windows Vistaまでは新興国向けに限定的に提供されてきたStarter版が、Windows 7 Starterとして全世界で提供される。

Windows XPから提供が始まったStarterは、初めてWindowsを利用するユーザ向けに、高度な機能を制限し、低価格のハードウェアと組み合わせて、最終製品価格を安価にすることを狙ったSKU。プリインストールのみの提供だが、そのライセンス料はかなり低く抑えられている。Windows 7 Starterでも、同時に起動可能なアプリケーションは3本まで、ユーザインターフェイスのAeroやマルチタッチをサポートしないといった機能制限を設ける一方で、ライセンス料も低く設定されている。

こうした機能制限版を先進国市場に投入する理由は、2008年に大ヒットしたネットブックの影響だ。ネットブックを低価格で提供できた背景には、MicrosoftがULCPCライセンスという名称で、安価にWindows XP Homeを提供したことがあげられる。すでにノート型PC市場の3割近くを占めるまでに成長したネットブックのエコシステムを壊さず、しかもリリースされてから8年目に入ったWindows XPを引退させるには、Windows 7に低価格にライセンスできるSKUが必要なのである。

問題は、Starter版になじみのない先進国のユーザが、Starter版に設けられた制約に納得できるか、という点にある。これならWindows XP Homeの方が良かった、と言われないためには、十分な説明と場合によってはこれまでStarter版には用意してこなかったアップグレードパスの提供も必要になるかもしれない。 **BP**



text × Haruo Motoazabu 【元麻布春男】

IT系雑誌やインターネットのコラムなどで広く活躍するフリーライター。執筆歴は15年以上におよぶ。1960年生まれ。

難攻不落のユーザーをつかめ

柳原秀基の目から鱗のIT夜話

text × Hideki Yanagihara【柳原秀基】

1980年代から国内機械製造メーカーの社内SEを経験。主にAS/400、Windows NTによるシステム構築を担当。Windows系ユーザコミュニティの設立に参画し、代表を務める。現在は大阪市立大学大学院創造都市研究科博士(後期)課程に学生として在籍しつつ、大学非常勤講師、講演を行っている。Microsoft MVPを受賞。著書に「システム管理者の眠れない夜」(IDG)など。

第八夜

ペーパーレスよ、もう一度

IT NIGHT TALK

人をリストラする恐ろしさ

前回の第七夜でわたくしは「企業は生き残りのために、リスクテイクしなければならない」と書きました。今回は、単に新しい技術の導入だけではなく、逆に「導入しない・使わない」という方法で生き残ることもできる、というお話をしましょう。

「導入しない・使わない」という方法の典型は、人件費削減のために人を減らすというものです。これは、製造業の場合にはそれなりに有効です。受注が減り、生産ラインを動かす必要が無いのなら、同時に作業者の仕事もなくなります。もちろん、人を生産ラインの一部とみなすことには異論はあると思いますが、経営的にみると、人を使わないという選択は正当でしょう。

しかし、「人を使わない」という選択が難しい仕事もあります。それは主にバックオフィス(人事給与・経理・管理・総務・情報システムなど)ですね。景気の悪化で売上高が減っても、計算結果の数字が小さくなるだけであって、計算の手間を減らすことはできません。つまり、不景気でも彼らの仕事は減りません。しかし現実には、リストラはバックオフィス側から始まるのが多いようです。矛盾していますね。

仕事の量は変わらないのに、人を減らすとどうなるでしょうか。まず残業が増えます。今すぐ必要ではない仕事は放置されるようになります。その結果、視野が短期的になり、中長期的な仕事は後回しになります。その悪影響は1年ほど経過してみないとわかりません。恐ろしいことですが、残業が増えた人の体への影響も、半年から1年経過しないとわかりません。

こうした悪影響を減らすには、人を減らしても残業が増えないような仕事の仕組みに変えていく必要があります。

さまざまなITの仕組みを導入することによってこれを

実現する、という切り口がありますが、基幹的な業務については、すでにパッケージソフトが導入されているのがほとんどです。もし導入されていなかったとしても、昨今の不景気では新たなシステムの導入に踏み切る企業は少ないのではないのでしょうか。

わかっちゃいるけどやめられねえ?

植木等が「わかっちゃいるけどやめられねえ」と歌って大ヒットしたのは1960年代ですが、これに共感を覚えた日本人のメンタリティは、今でもたいして変わっていないと思います。米国のオバマ新大統領は「チェンジ!」と叫んでいますが、実は日本人にとって最も苦手なものでしょう。

いまさら陳腐に聞こえるかもしれませんが「ペーパーレス」がその一つです。昔から減らせばいいのは分かっているけど、なかなか実行できないのが現実ではないのでしょうか?

報告書や会議資料、伝票、集計表などから一切の紙を排除することは、単にエコなだけではありません。紙の上でのレイアウトに時間をかけたりすることがなくなりますし、コピーする時間も不要です。おまけに保管のためのファイリングも不要になります。まさにバックオフィスの効率化に直結するのです。

実際にやってみると分かりますが、プロジェクトとグループウェアに繋がるパソコンがあれば、ペーパーレス会議は容易に実現できます。グループウェアを導入している企業は多いのですが、単にメールやスケジュール共有に留まっていることが多いと聞きます。もっと共有フォルダや掲示板を利用してペーパーレスを目指そうではありませんか。

ペーパーレスというエコと、コストダウンを目指してグループウェアを導入する事例は、これから増えてくると思いますし、確実に効果が見込めるテーマになるでしょう。BP



知ればお得な 最新IT用語検定！ 島川言成のオモシロマジメ解説付き

【第7限目】

設問 01

会計士が注目するXMLベースの言語とは？

1. XARL
(eXtensible Accounting Reporting Language)
2. XBRL
(eXtensible Business Reporting Language)
3. XCRL
(eXtensible Calculative Reporting Language)
4. XDRL
(eXtensible Datable Reporting Language)

設問 02

2009年7月からはじまる高速モバイルデータ通信サービスとは？

1. UQ WiMAX
2. NQ WiMAX
3. DQ WiMAX
4. OQ WiMAX



設問 03

ブログが閉鎖に追い込まれるコメント過剰集中状態のことを？

1. ブログ登場
2. ブログ劇場
3. ブログ炎上
4. ブログ頂上

設問 04

Web閲覧に特化したかのようなノートPCとは？

1. ネットブック
2. ネットノート
3. ネットピック
4. ネットチェック



設問 05

地球環境を考える情報通信機器のコンセプトは？

1. レッドIT
2. イエローIT
3. ブラックIT
4. グリーンIT



設問 06

WPA2規格に準拠した最強暗号方式とは？

1. AES(Advanced Encryption Standard)
2. ALS(Advanced Labyrinth Standard)
3. ASS(Advanced Safest Standard)
4. AES(Advanced Eccentric Standard)

■今月のメッセージ

USBメモリなどを介して感染拡大するコンピュータウイルスが話題になっています。ウイルス対策ソフトを導入していても、敵は亜種を登場させます。検出できないケースも考えられます。トレンドマイクロが「WORM_VB.CII」と呼ぶウイルスが社内で蔓延、大騒ぎになった企業を知っています。PC本体がUSB機器と認識するモノは数多くあります。便利メディアなので活用しますが、リスク情報の収集も必要ですね。

解説

○会計処理が飛躍的に向上するかも【正解→2 XBRL】

XMLベースの言語で、企業の財務諸表などの記述を前提としたものがXBRLです。金融、監査、会計などの企業、団体であるXBRL Internationalにより仕様制定されました。企業の財務情報のデータ形式を標準化ができれば、企業、会計士、官庁、投資家、市場関係者間の財務や会計データを高度に情報活用できるはずです。XBRL対応化できれば、決算などでの集計処理や法定書類の作成も自動化できるかも知れません。

○電車のなかで高速ブロードバンド【正解→1 UQ WiMAX】

モバイルWiMAX (IEEE 802.16e) 技術で高速モバイルデータ通信が利用できるブロードバンド通信サービスが「UQ WiMAX」です。本年、2月26日から東京23区・横浜市・川崎市でサービスを開始しました。6月30日までは「お試し期間」で、基本使用料と登録料が無料で提供されています。すでに2月3日から無料モニターの募集も開始しています。正式サービスは7月1日からで、それまでに東名阪まで利用エリアを拡大するそうです。料金プランは、登録料2,835円と月額4,480円で、完全定額制です。ユビキタス環境がますます便利になりますね。

○ネット時代はマナーが問われる【正解→3 ブログ炎上】

ブログやSNS内の日記は、条件設定をしなければ、どなたでも読むことができますし、コメントを書き込むことができます。HPやブログを作成する場合、留意すべきは、書き方次第で、不特定多数の閲覧者から、批判的なコメントが寄せられる点です。社会的に影響力の高い人のブログほど、反社会的な書き込みをすれば、

集中的に批判コメントが寄せられます。この状態を「ブログ炎上」や「祭り」と呼びます。法的に問題あるコメントを書けば、摘発される場合もあります。不快な思いをした場合は運営会社に相談してみることでね。

○Webブラウザ閲覧特化マシン？【正解→1 ネットブック】

PCの呼び方は定着するまで時間を必要とします。最近、ネットブックに名前が落ち着いたPCは、インターネット関連に特化した低価格、シンプル、小型のノートPCの総称です。2008年3月にインテルがモバイルPC向けプロセッサ「Intel Atom」を発売してから開発競争がはじまりました。代表的なネットブックはASUS社の「Eee PC」。引き続き、エイサー社やHP社からもネットブックが発表されました。国内では、東芝のネットブック「NB100」が最初のモデルです。今後、続々と新モデルが提案されることでしょうね。

○地球に優しいITコンセプト【正解→4 グリーンIT】

2006年頃から、米国で使われはじめたキーワードがグリーンITです。IT機器の高密度化は、データセンターやマシンルームの消費電力量・廃熱量を増加させます。その対策は実に多様です。省電力、低発熱型機器導入、仮想化技術によるサーバ統合、ストレージ統合、利用効率向上、給電方法の改善、サーバ冷却、空調システムの改善などなど。ITサービスによるCO2排出量の削減効果を考慮する動きは、今後も注目されます。

○安心・安全のための暗号化技術【正解→1 AES】

無線LANには、いろいろなセキュリティ機能が採用されています。「SSID」「WEP」「WPA」「AEP」といった名称をご存知の方もいるかと思います。これらは、セキュリティ規格名、暗号化技術名、秘密鍵名称などから命名されたものなので、名称よりも実質的な使用方法を理解することを優先しましょう。「AES」は最強の無線LAN暗号方式だと考えていただければ結構です。無線LANは、盗聴・不正利用・なりすましなどへの対策が不可欠です。最新トレンドは、従来のWPA規格を強化したWPA2規格で、「AES」はWPA2規格に準拠した現状では最強と言われている方式です。BP

